

2020年8月9日主日礼拝

『隔てのない祝福』

エペソ2：14～19

聖書箇所

- 14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、
15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、
16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。
17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。
18 私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。
19 こういうわけで、あなたがたは、もはや外国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです

導入：コイノニア

みなさん、おはようございます。今日の礼拝では、私たちの教会に与えられている隔てのない祝福であるコイノニアについて考え、その祝福を再確認する時を持ちたいと願っています。

土浦めぐみ教会は韓国のソウルにあるテバン教会と姉妹関係を結び、毎年交わりの時を持ってきました。実は去年のちょうど今頃にも青年コイノニアがありました。土浦めぐみ教会から青年を中心とした33人が韓国に行き、特別な交わりを持ち、祝福された時間を過ごしたのです。

今年は壮年コイノニアが予定されていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で両国を行き来することが困難なため、残念ながらコイノニアの交わりを持つことは出来ません。しかし、今もお互いのために祈り合い、再会する時を楽しみにしています。コイノニアは今まで特別な祝福を受けてきました。そして、これからも続き、祝福を受けて行くことでしょう。

しかし、韓国について、コイノニアについて、テバン教会についてあまりよく知らないという方もおられることと思います。ですから、まず韓国とテバン教会について紹介します。【写真】

韓国は日本の西にあり、飛行機を使用すると約2時間で行くことができます。面積は99,392 km²。日本の面積377,900 km²なので、日本の約4分の1の広さです。人口は約4,400万人です。日本と比べると3分の1くらいでしょうか。首都はソウルです。韓国の人口の約4分の1の人がソウルに住んでいると言われています。ソウルの面積は東京都と同じくらいですが、住んでいる人は約200万人ソウルの方が多いのです。言語はハングルです。ハングルは7世紀後半に作られ、文字は1443年に作られました。最近は韓流ドラマやK-popなどが、日本でも流行しているので、韓国の文化について馴染み深い方もおられるのではないのでしょうか。TEENSの子どもたちの中には韓国のアイドルについて私より詳しい子もいるほどです。

テバン教会はソウルのテバンドン、日本で言えばテバン区にある教会です。テバンとは土浦めぐみ教会の土浦のように地名なんです。**【写真】**テバン教会は1946年に建てられ、74年の歴史があります。今の主任牧師はキル・ヒョンジュ師です。現在副牧師の先生が6人、長老が26人、信徒の方々が約1,500人おられるそうです。**【写真】**世代別に分かれて家族のような親密な交わりを持つこと、一緒に神様を見上げ、礼拝と学びの時を持つことを大切にしている教会です。

そんなテバン教会と土浦めぐみ教会は姉妹協定を結び、今日まで神の家族としての交わりを持ってきました。その歩みには神様からの特別な導きと守りがいつもありました。

今日のメッセージ題は『隔てのない祝福』としました。神様がコイノニアを通して両教会に与えられた祝福にはどんな隔たりもなかったからです。日本と韓国のことを考えると、両民族の文化や考え方、政治、環境、歴史など、お互いを遠ざけてしまうようなものがたくさんあります。しかし、そのすべての隔てを超える祝福が確かにあったのです。今日はその隔てのない祝福を一緒に見て行きましょう。

本文1：コイノニアの歴史と祝福

2018年、両教会はこの特別な祝福を振り返り記念誌を作成しました。それがこれです。私はこの記念誌ができたのがとても嬉しくて、時々読み返しているのですが、その度に神様の不思議な導きを思い、感謝が溢れてきます。この20周年記念誌に記されていることをもとにコイノニアのことを紹介します。

土浦めぐみ教会と、テバン教会のコイノニアの始まりは韓国から日本に留学していたある夫婦がきっかけとなりました。その夫婦は留学している間、土浦めぐみ教会に来て、仲間として一緒に礼拝したのです。やがて二人は韓国に帰国して、土浦めぐみ教会の仲間を韓国に招待しました。そしてテバン教会とそこに集う方々に紹介したのです。このようにして1998年にコイノニアは始まりました。

それから TEENS、青年、壮年、時には両教会のリーダーの交わりが23年間ずっと続いています。コイノニアに直接参加された方々は両教会合わせて約900人になります。毎年30～50人の方々お互いの教会を訪問し、同じ時を過ごし、互いの文化を理解し合い、同じ神さまを礼拝し、神の家族としての交わりを持ちました。23年分の神様からの特別な祝福をすべて語るにはあまりにも時間が足りないので、3つのポイントで紹介します。

①一緒に過ごす祝福。ホームステイ。

コイノニアと言えば、まず思い起こされるのがホームステイです。コイノニアが20年以上も続いている大きな理由の一つが、ホームステイ家族の受け入れなのです。毎年の交流では必ず何泊か教会員のお家に泊めてもらうホームステイプログラムが用意されています。ホームステイは異文化体験の中でもっとも個人的、かつ、身近な交わりを味わえる場所なのです。

訪問先のクリスチャンホームに迎えられ、家族そろって夕食をともにし、普段の生活を目の当たりにすることができます。教会では硬い表情を見せていた方々も笑顔が増え、同じ年代の子どもがその父親に甘える姿などを見ることもあります。言葉が通じない不便はあっても、家族の写真を見せてもらったり、知っている曲と一緒に賛美したりして、いかに歓迎されているか、いかに交わりを持ちたいと願っているかが確実に伝わってくるのです。

手を握って離さなかったり、抱き合ったりとする韓国スタイルに日本の方々が戸惑うこともあれば、家でお風呂に入ったり、お茶碗を持ってご飯を食べるという韓国ではありえない日本のスタイルに韓国の方々が驚いたりします。そんなことを通してお互いへの理解を深め、違いを認め合い、楽しむようになっていくのです。

そのように過ごしてからは、帰国しても互いのために祈り、連絡を取り合い続けることも多くあります。ホームステイこそコイノニアの醍醐味であり、神の家族としての心地よさを堪能できる大きな祝福の時なのです。

②互いの文化を知り、理解する祝福。異文化体験、短期留学生。

コイノニアのプログラムの中には、必ずお互いの国の文化を体験するものが含まれています。韓国ではキムチ作り体験であったり、日本においてはめぐみ祭りであったり。また、食べ物もチゲやブルゴキなどのこれぞ韓国の食事といったものや、すしや天ぷらなどの和食を代表するものを食べられるように計画しています。観光もまた互いの文化を理解する重要なポイントなので、行先は何度でも話し合い慎重に決めるようにしています。

異文化を体験してお互いへの理解を深めることによって、より深い交わりを持つことができます。最初は慣れない異文化も、神の家族と一緒に経験することによって、お互いを理解する大切

な時となっていくのです。

より濃く異文化体験をすることができるのは、コイノニア短期留学生の方々でしょう。2000年から始まった交換留学生制度は、お互いに2名の青年を派遣・受入するというものです。最初の数年は1か月という長い期間を過ごし、滞在中にたくさんの経験をして、会話が上達する留学生もいました。現在は約2週間程度の期間となっています。受入側の青年会メンバーが面倒を見て、青年同士が親しい交わりを持つ貴重な機会となりました。2019年までの交換留学生は60人以上になり、一部のメンバーは現在のコイノニアのリーダーとなっています。

③一緒に神様を見上げる祝福。主日礼拝。キャンプ。

コイノニアの日程には必ず主日が含まれています。神の家族として、一緒に神様を礼拝する時を持つのです。コイノニアの礼拝では両教会の牧師がお互いにメッセージをします。実は日本と韓国では礼拝文化もかなり違うのです。韓国の礼拝ではメッセージにアーメンと声を出して応答をしたり、皆で声を出して祈ったりします。初めて韓国の礼拝を体験する方は礼拝中に声を出すスタイルにびっくりしてしまうことも多々あります。それでも、同じ神さまと一緒に礼拝することができるのは、神の家族としての大きな祝福です。

TEENS コイノニア、青年コイノニアではキャンプが行われます。キャンプでは互いにより深く交わり、より深くみことばを分かち合う時を持つことができます。それとともに相互理解も深まり、初日はどこかよそよそしかった雰囲気も次の日にはなくなってしまうのです。

2015年に韓国で行なわれた TEENS コイノニアが、私が初めて経験したコイノニアだったのですが、この時私はこの写真の光景を見て感動しました。**【写真】**これ、何をしているところかわかりますか？日本と韓国の中高生がお互いのために祈り合っているところです。中学1年生、2,3年生、高校1年生、高校2,3年生、教師の順番で円の真ん中で集まり、それを囲んでたくさんの人たちが真ん中に集まっている人たちのために祈る時間を持ちました。中には涙を流しながら祈っている子どもたちもいました。たくさん子どもたちが感動し、めぐみを受け、そして、神の家族のために祈るということを経験したのです。

コイノニアの紹介は以上となります。コイノニアは日本の土浦めぐみ教会と韓国のテバン教会を、神の家族にしてくれました。それは神の奇跡、神の祝福です。

本文 2：隔てのない祝福

①人と人との隔てがなくなった祝福

私を含め、コイノニアを知る人は、この交わりを奇跡だと言います。なぜならば、日本と韓国には大きな隔ての壁があるからです。とても交わることができないような、ましてや、お互いを思い愛し合うことなどできるはずもないような、大きな、大きな隔たりです。

75年前、日本と韓国の間には、戦争による悲しい歴史がありました。そして、その傷は今もなお癒えているとは言えないのです。

20年前に亡くなった私の父方の祖母は戦争を経験しました。そんな祖母のお尻には銃に撃たれた傷がありました。戦争で逃げる時に日本兵に打たれたてできた傷だったと聞いたことがあります。私の韓国の友人の話もみな同じような話を祖父母に聞いたと言います。おじいちゃん、おばあちゃんという身近な存在が、戦争によって傷を受けていることを目の当たりにするのです。

奇しくも、今日8月9日は、75年前の長崎に原爆が落とされた日です。8月6日には広島において原爆が投下されて75年となる「原爆の日」を迎えました。新型コロナウイルスの影響で、例年どおりの追悼が難しい状況となるなか、被爆地・広島は一日中、犠牲者を追悼する祈りに包まれたそうです。

孫と一緒に原爆慰霊碑を訪れた91歳の被爆者の女性は、「結婚して70年ほど、毎年、原爆で両親と弟を亡くした夫と慰霊に訪れていましたが、ことし5月に夫が亡くなり今日は写真を持ってきました。被爆したときはひどい爆風で吹き飛ばされるようでした。戦争は悲惨で二度とあってはいけません」と話していたそうです。

戦争が終わり75年になりますが、戦争の傷は未だに深く、そして驚くほど身近に残っているのです。深い傷跡からの悲しみが近くにあるからこそ、両国は歩みよることができないのでしょう。近くて遠い国が日本だ。韓国は近くて遠い国だ。なんて言葉はなかなか消えることはありません。

だからこそ私は、日本と韓国の隔ての壁が打ち壊されたコイノニアが特別な祝福であると思います。その祝福は私たちの救い主によって起こっているのです。

- 14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、
- 15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、
- 16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。
- 17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。
- 18 私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことが

できるのです。

イエス・キリストのよって私たちの前にあった隔てはなくなりました。日本と韓国の間あった文化の違い、考え方の違い、言語の違い、何よりも戦争という悲しい歴史の隔てが、その悲しみからくる隔てが神の家族になることでなくなったのです。

2017年はコイノニア20周年の時でした。そのことを記念し、両教会のリーダーはお互いの教会を訪問したのですが、テバン教会から一人の執事が初めて土浦めぐみ教会に来られました。彼は20周年記念誌において、その時のことを次のように証しています。何度か紹介したこともありますが、コイノニアの祝福を最もよくあらわしている証だと思うので、一部抜粋してお読みいたします。

『…私は日本という国と日本人がとても嫌いだった人間です。なので、私は中高生たちと一緒に土浦めぐみ教会を訪問する機会がある度に、会社の仕事などを口実に一緒には行きませんでした。

そんな私が今回参加する機会が訪れたとき、私は神様にこのように祈りました。「これまでの間何度も土浦めぐみ教会から来た人たちに会ったけど、彼らと少しでも時間を割き個人的に深みのある話をしたことが一度もありません。彼らと心から笑って挨拶したこともほとんどありません。しかし、彼らの中に話をしてみたい人たちがいます。今回の訪問を通してそのような時間を持つことができるよう導いてくださり、彼らを見る私の考えを定めることができるよう助けてください。」

神様はこんな私にコイノニアの期間中祈りの内容以上の経験を与えてくださいました。私は今回の訪問を通して、日本と日本人たちを嫌い、そのことによって同じ神様を信じ、仕えている土浦めぐみ教会の信徒たちですら愛そうとしていない私を神様は憐れんでくださり、私の考えの内に積極的に介入してくださり働いてくださったと固く信じます。

同じ神様を信じて頼り私たちよりも困難な宗教的環境、ありとあらゆる偏見と不利益と戦い、信仰を守り御言葉を広げ生きている彼らを受けない私を憐れんでくださった神様に感謝します。

今回の訪問を通して私は少なくとも「土浦めぐみ教会の信徒たちはもちろん、日本で神様を信じている全ての教会の信徒の方々は愛せる。」と思えるようになりました。こんな思い、心をくださった神様に感謝します。』

執事は、神様によって示されて、コイノニアに参加しました。それは執事の葛藤、思いを神様に委ねての参加でした。そして、そんな執事に、神様は信仰の友、神の家族の交わりの、深い喜びを与えてくださったのです。隔てのない祝福が確かに神様から与えられているのです。

②祝福を受けるのに隔てはない

19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです

同じ国民であり、神の家族であるとはどういうことでしょうか。キリストによって隔ての壁が壊された者はみな同じだということです。神の家族であるなら、誰もが祝福を受けることができるということです。神様の祝福を受けるのに隔てはないのです。

コイノニアの祝福は誰のためのものでしょうか？23年間直接コイノニアに参加した人だけのものでしょうか。違います。神の家族みんなに与えられているものです。だからこそ、世代を超えての交わりがあるのです。TEENS コイノニアに参加した中高生が青年になって、また青年コイノニアに参加します。短期留学生を経験した人が、壮年になり、コイノニアを導くリーダーになることもあります。コイノニアの祝福がこれからも続き、神の家族の交わりが増し加えられることを願っているのです。

テバン教会のコイノニア委員会委員長であるキム・ジンソン長老は 20 周年記念誌の中でコイノニアの祝福をこのように記しています。

『私たちの出会いと交わりを神様はご計画くださったので、会う度に新たな感動と胸の高鳴りがあり、これまでキリストの愛だけが、その痕跡として残りました。

また、神様の計画があったゆえに歳月が流れても、出会う年代が違って、言葉が未熟で文化や環境が違って、私たちの中にキリストの愛によって、出会いと別れと期待だけが続いたのです。聖書の御言葉のように「誰が私たちをキリストの愛から引き離すのか」と言われたことが、私たちの中に実現しているのです。

ですから、私たちの出会いは続かなければなりません。キリストの愛の実が継続して私たちの中に多く実る必要があるからです。歳月が流れ、私たちの教会の世代が変わっても、私たちに向けられた神様の聖なるみむねが行なわれるために、キリストの豊かな実をさらに多く結ぶために、福音と信仰の交流が成就するために、私たちの出会いの努力はさらに熱心に続けなければなりません。』

神様の特別な祝福は、神の家族に隔てなく与えられている祝福です。コイノニアの祝福は昔のものではありません。選ばれた人だけに与えられているものではありません。だからこそ、コイノニアがこれからも続き、より多くの実を結ぶことを願うのです。今もなお私たちに注がれている、豊かな祝福を喜んで受け止めようではありませんか。

結論

私たちに特別に与えられている隔てのない祝福であるコイノニア。隔ての壁が打ち壊され神の家族になれた幸いを喜びましょう。神の家族に隔てなく与えられている祝福を受け止めましょう。これからもコイノニアによる神様の祝福がさらに豊かに注がれることを願います。

祈りましょう。